
II. ニセコビジョン～基本構想

2-1. ニセコ町の基本理念

基本理念

相互扶助の実践を通して、誇りに思えるまちを創る

環境創造都市ニセコ

ニセコ町は、羊蹄山をはじめとする豊かな自然環境に恵まれたまちです。

豊かな自然環境は、私たちが生きていくうえで、心身の健康や活力を与えてくれるかけがえのないものであると同時に、まちの発展を支える産業の基礎にもなっています。

ニセコ町の主な産業は農業と観光業です。豊かな自然環境のもと営まれる農業は、美味しい農産物を育てるだけでなく、美しい農村景観を生み出します。このような食べ物や景色を求めて多くの人々がニセコ町に訪れています。また、さわやかですごしやすい夏や、美しく良質なパウダースノーを求めて、海外からも多くの観光客が集まっています。

ニセコ町の地域経済は、こうした外からの来訪者だけでなく、まちの産業や暮らしによって成り立っています。地域で採れた農産物を地域で消費する地産地消や、地元の商店街で毎日の買い物を済ませることも、ニセコの地域経済をまわすことにつながっています。

また、ニセコ町では、地域資源を活用した自然エネルギーの活用にも取り組んでいます。ニセコ町の地域資源でつくられたエネルギーを、ニセコ町で使う、そんなエネルギーの地産地消が実現するかもしれません。

このように、ニセコ町の地域資源は、豊かな自然環境を基礎としながら、お互いに関わり合い、循環して「ニセコ町らしさ」を創り出しています。

無理に新しいものを導入しなくとも、今ここにあるさまざまな地域の資源を、力強く循環させ、地域内をめぐらせることができれば、よりいきいきした地域を創造することができるのではないのでしょうか。

このような「循環するまち」を目指すためには、互いに協力しあい、支えあいながら地域づくりを進めていく地域力の醸成が不可欠です。

有島武郎が遺した住民自治の原点となる「相互扶助」の精神は、ニセコ町のまちづくりに脈々と受け継がれ、まちの地域力の素地として根付いてきました。

市場主義にもとづく競争社会の今だからこそ、子育てや教育、高齢者福祉など、世代を超えて地域で支え合い、助け合う「相互扶助」の地域力が重要になってくるのではないのでしょうか。

ニセコ町は、これからの12年間、相互扶助の実践を通して地域力を醸成し、自然環境をはじめとした地域にある資源を最大限にいかしながら、よりいきいきした地域を創造していきます。

■基本理念を支える5つの将来像

1. 循環：ゆたかな自然環境を軸にエネルギーが循環するまち

ニセコ町は羊蹄山やニセコアンヌプリ等の森林や尻別川等の水といった、豊かな自然環境を抱いたまちです。この自然環境の恵みを基盤に基幹産業である農業を営み、自然環境と共生しながら暮らしていることが、ニセコの特徴の一つであり、今後もより充実させていきたい将来像でもあります。

2. 連携：自然環境と調和した経済社会を持つまち

ニセコ町の豊かな自然環境は、農業の基盤となるだけでなく、雄大な自然の中での癒しやレジャーを求める観光客をひきつけ、国際観光リゾートとしてのニセコを支えています。また、これらの農業や観光業と商工業が連携することで、まち全体で自然環境と調和した経済社会を展開していくことが望まれます。

3. 挑戦：まちの魅力を活かした新たな挑戦が、人と文化を育てるまち

環境問題やエネルギー問題に関する取り組み、観光を環境と結びつけた「国際環境リゾート」に向けた取り組み等、将来のまちの姿を考えるにあたり進展が望まれる分野への積極的な一歩を踏み出すことが必要です。また、ニセコ町は国内だけでなく国外からも多くの移住者が訪れるまちであることから、彼らを受け入れ、ともに協力しながら新たな課題に挑戦することが望まれます。

4. 共助：みんなが学びあい、成長しながら、いきいきと暮らすまち

ニセコ町は、これまで多くの人びとに支えられ、100年を越える歩みを刻んできました。かつて自らの農地を無償解放した文豪有島武郎の「相互扶助」の精神は、人を思いやり、助け合う優しい心を育んできたわたしたちの社会に今も息づいています。将来のまちづくりに向けて、次世代にこの相互扶助の精神を引き継ぎ、ともに学び合い、支えあうことが大切です。

5. 平和：だれもが安心して暮らせるまち

普段の生活から助け合い、支え合い、見守り合いながら、安心して生活を送る事ができる地域社会が望まれることはもちろん、もしもの病気や災害時にも安心できる医療体制や防災体制がきちんと整っていることが大切です。

基本理念は、「総合計画策定審議会」や「外国人住民を囲んでの意見交換会」、「子どもワークショップ」等が出された意見をもとに、策定しました。以下に、その概要を示します。

資料

□「総合計画策定審議会」や「外国人住民を囲んでの意見交換会」での意見より

【国際化】

- 国際性やグローバル化にこだわらなくてもよいのではないか。
- ニセコはニセコでありつづけるのが良い。

【地域特性の成熟】

- 国際化や観光だけでなく、町民の「暮らし」にも目を向け、足元をきちんとかためた、「ニセコらしさ」を育てる必要がある。
- 地域特性を成熟させていく、「ニセコらしさ」という個性を作りだしていくことが、国際化につながるのではないか。

【おおらかさ】

- 移住者や、各国の来訪者を受け入れるおおらかさが「ニセコらしさ」の一つであり、「世界に開かれている」ことではないか。

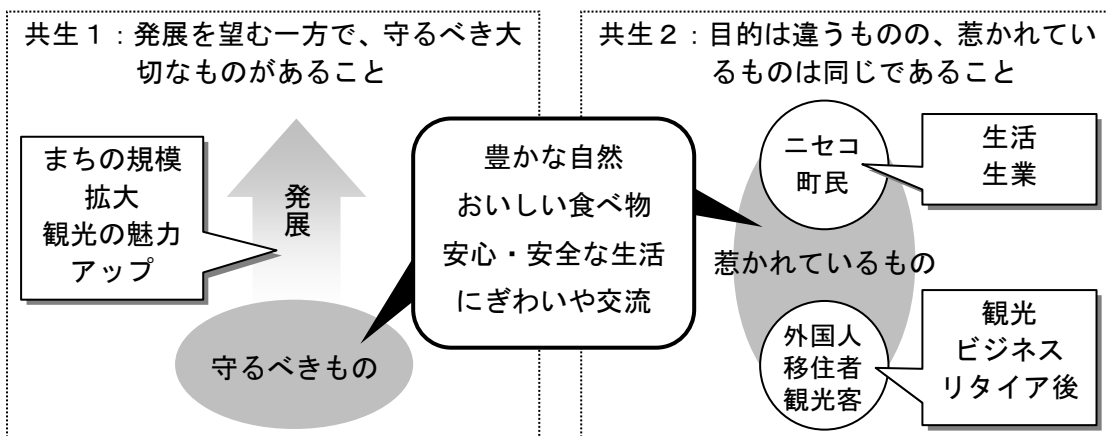
□「子どもワークショップ」より

第5次総合計画策定にあたり、「子どもワークショップ」を計3回行いました。子供たちが作成した「ニセコまちづくり物語」と「ニセコ未来新聞」からは共通して、二つの「異なるもの」が「共生」していく枠組みが読み取れます。

ひとつは、まちの規模拡大や観光の魅力向上等、発展を望む一方で豊かな自然や安心・安全な生活も大切にすることが必要であることと、もうひとつは、観光やビジネスを目的に来訪する外国人移住者や観光客のほか、ニセコ町民も、ニセコの豊かな自然や美味しい食べ物に惹かれているのだということです。

この二つは相互に関係し合う考え方ですが、守るべきニセコの資源として、「豊かな自然、美味しい食べ物、安心・安全な生活、にぎわいや交流」等が共通して捉えられています。

このように、子ども達の視点も踏まえて基本理念を策定しています。



2-2. 計画の体系

■全体の体系について

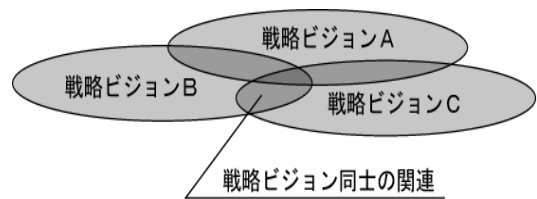
基本理念である「ともに暮らすまちニセコ（仮）」を実現するため、5つの将来像を踏まえて、効果的な政策項目の進め方としての「戦略ビジョン」、分野別の「戦略推進プラン」、地区ごとの「地区別ビジョン」を定め、進めていきます。

■戦略ビジョンについて

「戦略ビジョン」は、基本理念の実現に向けて「目指す姿」と「そのためにやるべきこと」を段階的に示した基本計画です。これまでの分野別の計画とは違い、一つの「目指す姿」を実現するために、分野を横断し、行政内の各部署が連携しながら取り組んでいく必要があります。

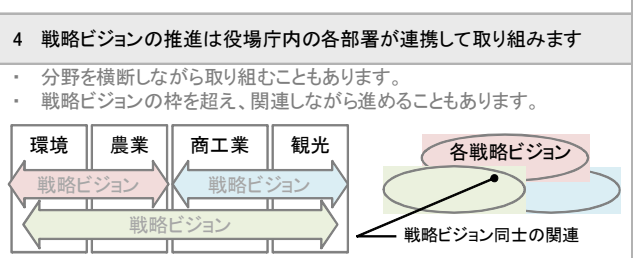
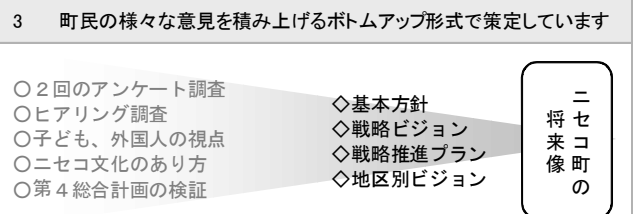
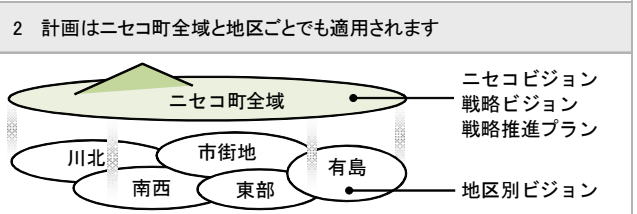
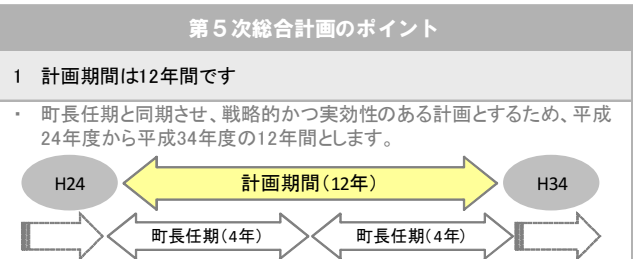
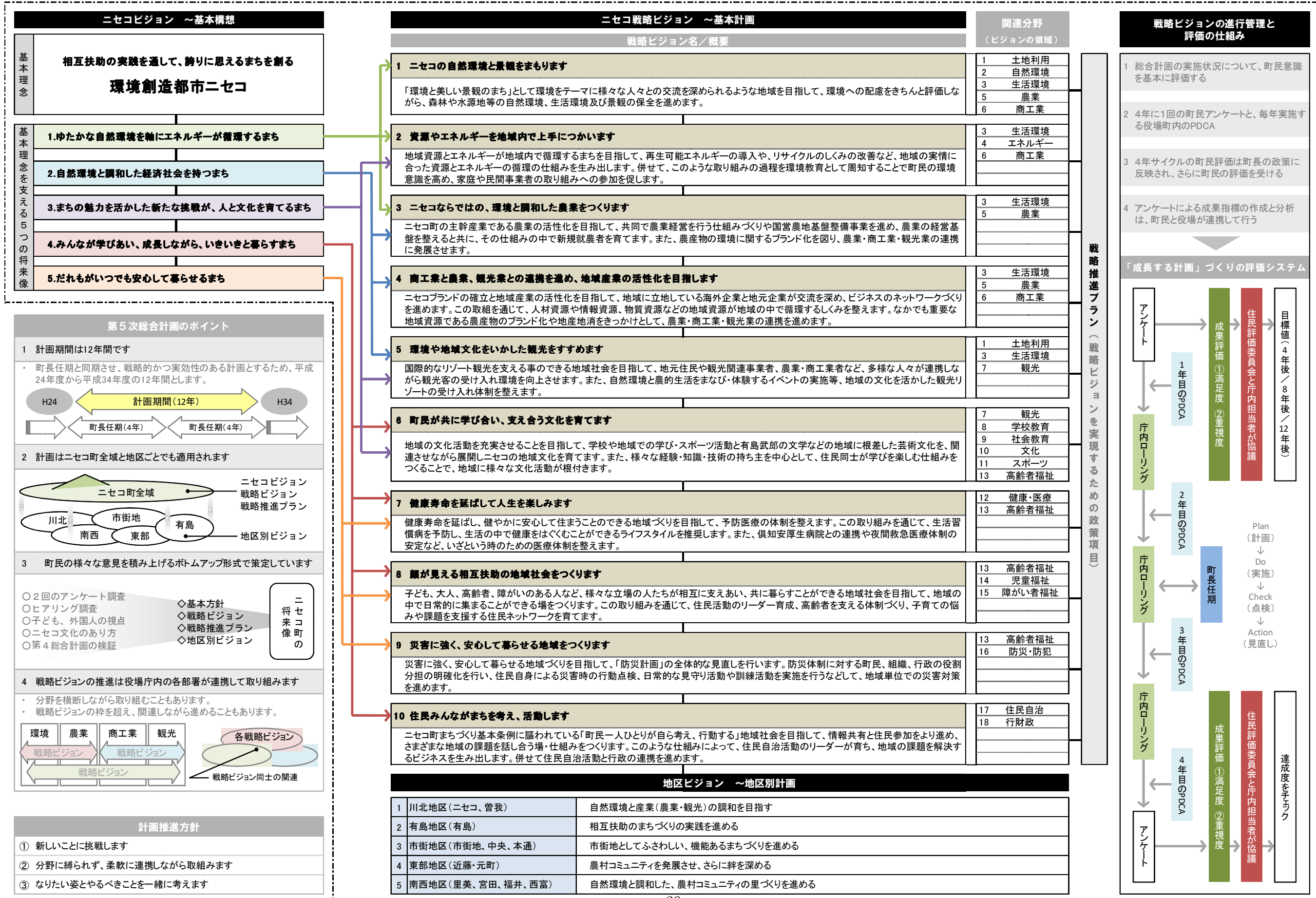


各戦略ビジョンを構成する施策どうしは、戦略ビジョンの枠を超えて、相互に関係し合っているため、各戦略ビジョンを個別に進めるのではなく、互いに連携しあいながら、「ともに暮らすまちニセコ（仮）」の実現に向けて取組を進めていく必要があります。



一つの戦略ビジョンを進める際には、役場庁内の各部署間で連携が必要となることもあります。次頁に、各戦略ビジョンの概要も含めた第5次総合計画の全体像を記載しています。

第5次ニセコ町総合計画の全体像



計画推進方針

- ① 新しいことに挑戦します
- ② 分野に縛られず、柔軟に連携しながら取り組みます
- ③ なりたい姿とやるべきことを一緒に考えます

地区ビジョン ～地区別計画

1 川北地区(ニセコ、曾我)	自然環境と産業(農業・観光)の調和を目指す
2 有島地区(有島)	相互扶助のまちづくりの実践を進める
3 市街地区(市街地、中央、本通)	市街地としてふさわしい、機能あるまちづくりを進める
4 東部地区(近藤・元町)	農村コミュニティを発展させ、さらに絆を深める
5 南西地区(里美、宮田、福井、西富)	自然環境と調和した、農村コミュニティの里づくりを進める

2-3. 計画推進方針

①新しいことに挑戦します

社会経済の成熟化が進展し、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中で、環境、食料、エネルギー問題についての関心が急速に高まっています。

その中で、ニセコ町が地域の活力を伸ばしていくためには、豊かな自然環境を生かした農業のブランド化や、国際環境リゾート化、資源・エネルギーが循環する地域づくり等、地域資源を活かし、これからの時代に対応した挑戦をしていくことが必要です。

挑戦の精神を持ち、一步先行く新しい取り組みを進め、また、進むだけではないニセコ町の礎をしっかりと守っていくという新しい挑戦をも進めていきます。

②分野に縛られず、柔軟に連携しながら取り組みます

ニセコ町の豊かな生活や魅力は、「健全な農業と自然環境」、「自然環境と国際リゾート」、「国際リゾートと地域コミュニティ」、「地域コミュニティと観光客や移住者」等のさまざまな要素が、関わりあいながら形成されているといえます。

このような中で、分野に縛られず、目指す姿に向けて、関係する人々が柔軟に連携しながら取り組みを進めていきます。

③なりたい姿とやるべきことを一緒に考えます

従来型の「何をするか」だけを示す計画は、施策の成果が個別的になってしまい、将来像の実現への道筋が不明確になってしまう恐れがありました。

そこで、第5次ニセコ町総合計画では、「何をするか」を示すだけでなく、「何を目指して」「どのような道筋で」施策を実行していくのかを示します。

このようにして、ニセコ町を目指す姿である「(仮)ともに暮らすまちニセコ」に向けて、行政そして町民がやるべきことを一歩ずつ着実に取り組んでいきます。